

寺
ごよみ

一月

五日 修正会 年頭参り
六日 栗虫・報恩講

御正忌報恩講

一三日 昼一時 速夜
一四日 昼一時 速夜
一五日 朝十一時 お講
一六日 昼一時 満座
朝十一時 お講
夜七時半 初夜
夜七時半 初夜

二月

一日 お講・浦山
五日 三日市・報恩講
一四日 生地・荻生・報恩講
一六日 お講・下立
二〇日 下立・報恩講
二二日 舟見・報恩講
二四日 入善・泊・報恩講
二七日 枋屋・熊野・報恩講

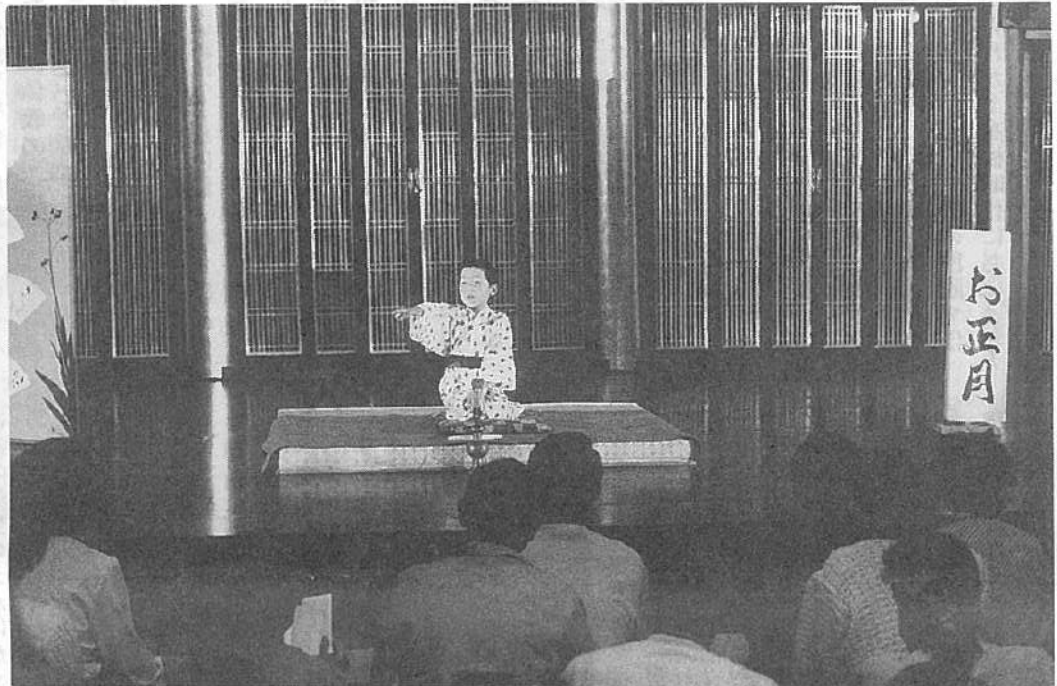
寺報

善 巧

発行

938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山 4 9 7
白雪山 善 巧 寺
宇奈月 0765(65)0055

賀正



「オイ お坊さんが二人通るよ」「ナルホド おしょうがつー」

(お寺座「子供落語」より)

お目出度うございます。皆さん明るい新年をお迎えのことと
思います。
繁栄の日本と言われておりま
す。飢えも貧乏も失業もない今
日の日本は、正に豊かな国だと
言えるでしょう。併し、本当に
豊かなのでしょうか。心ある人
は、その豊かさの実態なるもの
を見つめています。物質的には、
如何にも物が満ち溢れているよ
うに見えますが、精神的には到底
豊かとは言えない現状
ではないでしょうか。そ
して、心の豊かさという
事は、政治でも経済でも
教育でもなく、宗教にか
かわる問題です。今日、
自信をもって、「私は仏教
徒である」「私は念仏者で
ある」と言い切れる人が、
仏教国日本に、真宗王国
富山に何人いるでしょう。
こんな時、よく比較され
るのが欧米キリスト教との違い
です。日曜日には教会に詣る習
慣、夕飯の前にお祈りをする家
庭のしつけ等々、クリスマス・イ
ヴにだけケーキを食べて馬鹿騒
ぎをする日本とは、宗教が長い
歴史の間に、各人の意識のひだ
の奥深いところ迄しみこんでい
る点で大変な相違です。「昔はこ
うではなかった」とお年寄りは
仰言います。「お寺は年中賑や
かだったし、お寺の囲炉裏端は、

年頭所感

交際場であり、公民館だった。
又、冬になれば毎夜お初夜が何
処かの家で勤まって、お説教を
聞きに通ったものだった」と現
在のお寺の沈滞を指摘なさいま
す。
宗教を抜きにしては思想も文
化もありません。そして、その
宗教の大事な場所であるお寺が、
暗い淋しい面白くない場所であ
ったら日本の豊かな思想や文化
は育ちません。
併し、新しい流れが私達
の善巧寺にも、見られるよ
うになりました。此処十年
余りの間に、閉鎖的な寺か
ら開放的な寺へ、古臭い寺
から新しい寺へと、徐々に
変容して行く過程が、人々
の口の端に上るようになって
来ました。
私達は現代社会に生きて
おります。その現代社会は、
先端技術、先端科学の革命
的進歩によって、変容を遂げ、
その上に今日の物質的繁栄がも
たらされたのです。宗教と雖も
過去の遺物であつてはなりませ
ん。今日に生きる人間の、かけ
がえのないのちにかかわる唯
一つの宝なのです。自画自讃で
なく、善巧寺は、明るい、楽し
い宗教の殿堂として、現代とい
うむつかしい時代の中で、懸命
の努力を払っております。
住職 雪山俊之

寺報



仏縁

行信教教授

高田慈昭師

高田でございます。空華忌にまたご縁をいただきました。

ご当地北陸というところは、仏法のご縁が、厚いところでございますが、他方へまいりますとなかなか、ご縁のうすいところもございます。

なかには、わかったような顔して、仏法をあやまつて解釈しているものもいる。

うちの近くの奥さん、もう年は七十ぐらいなんですが、「奥さん、お寺に参りなさい」といいますと

「まだ、わたしは早い」といわれる。何が早い？ 一つ往くかわからん世の中ですよ、元気なうちに聞いておきなさいよ、といつても聞こえません。こういう考えの方が多いですね。

こちらには「雪ん子劇団」というのがあってね、小さいころ

ですが、これで引っかけて、全部ダメ。うらみましたねえ。その時の先生を。

から仏縁をむすんでおられますがね、わたしの方でも日曜学校や仏教青年会、婦人会といろんな折に仏教のご縁をむすぶようにしているんですが、なかには、「まだ早い」という人がけっこうおられる。

いや、これは他人事ではありませんね。わたしだってそうでした。お寺に

「お寺へ参りなさいよ」 「いや、わたしはまだ早い」

がなかったら、一生仏法を知らずに終わつたかもしれません。

それもね、若い頃は坊さんになるのがいやでね。子供の時にみんなに「坊主、坊主、タコ坊主」なんてバカにされたりしまして、もういややというて、お寺を飛び出そうと思つたこともありま

す。大学入試の頃でしたか、仏教に関係のない学校へ行こうと思ひましてね、長男でしたが、い

ワイ、ヒソヒソやるわけです。で、これで終わりかと思つたら、つぎににぎやかになるのが坊さんのまわりです。四百人の同窓生の中で、坊さんはわたし一人なんです。えらい繁盛で、みんなやってきます。

「おい、高田くん、お前、坊さんやったなあ。仏教ちゅうのはどんな教えや。うん、おれももう定年やしなあ。心の整理もつけとかんといかんと思つてな」

「一体人生ってなんなんやろかと近頃思ふようになったわ」とかいひながら、一流会社の

社長も大学の先生も、やつてくるんですが、みんな仏法がわか

とらんですなあ。

「親鸞がどうした、道元がなんじゃ、釈迦がなんじゃ」

なんてえらそうなこといつていた証券会社の部長をしておる男が、えらい病気で死にかつた。で、回復したら四国の八十八カ所巡礼しとる。

「なんや、お前、家族がなんじゃとかえらそうなこといつて、」

といったら、

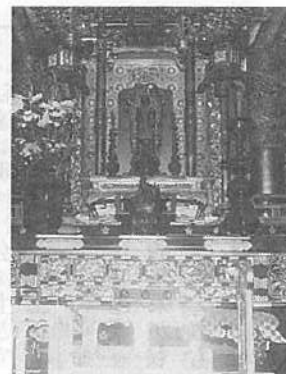
「やつぱりいのちがおいしい」

表面ははなやかそうな顔しておるけれども一人一人の心の中に入ってみると、いろんな悩み

寺
こよみ

三月

一日 お講
二日 浦山・報恩講
九日 太子会
一三日



一四日 富山・報恩講
一六日 お講
二〇日 総代会
二五日 雪ん子劇団春の公演

をかかえとる。で、年いってくとだんだんそういうことがわかってくるんです。

ですから、お寺参りは年とつてからというのもあるが、ちまちまいではないということになりますね。宗教というのは、やっぱり人生のいろんな経験をして、そこに本当の安らぎを求めてこの世に生まれてきてよかったなあ、と安心して生き、安心して死んでゆける身にならせてもらうのだと思うんです。

生きるよりどころと、死のおちつき所をはっきりと知らせてもらうのが宗教なのですから。

若はんと若與さんと雪ん子と

[illegible]

相川アナ
ほう

A collage of five black and white photographs showing various scenes of people in a community setting, likely a health center or clinic. The photos are arranged in a grid-like fashion with text overlays. The top-left photo shows two men sitting at a table. The top-right photo shows a man and a woman sitting at a table. The middle-left photo shows a man and a woman sitting on a bench. The middle-right photo shows a man and a woman sitting on a bench. The bottom-left photo shows a man and a woman sitting on a bench. The bottom-right photo shows a man and a woman sitting on a bench. Text overlays are present on several of the photos, including the top-left, top-right, middle-left, middle-right, and bottom-right photos.



■「暮しの手帖」(770円)残部有

相川アナ
なるほど宇奈月の

(…と10分間の全国生中継)

[illegible]

白雪山善巧寺は富山県宇奈月町にある。この寺の若はん（住職のあとつぎ）雪山隆弘さんは元新聞記者で入り婿、奥さんの玲子さんは元アナウンサーだ◆「暮しの手帖」10・11月号の「ある日本人の暮し」は、この夫妻の日々を追っている。東京からこの寺へ帰って十六年。日曜学校を開き、その子供たちによる雪ん子劇団を作った◆「だれにも開かれた寺にする。」

にも開かれた寺にする。

昔のように文化の中心地

にする。一人でも多くの

人に仏教に親しんでもら

「こころが若はんの思し

五年、富山本願寺の刃罪

三空 富山の願寺の社説

で観客動員六万人余に上

る。若はんは月に十回の

講演もこなす。仏教の考

え方をわかりやすく、面

白く伝えるのだ◆ふんぞ

りかえて、単なる葬儀、

法事の場に陞してゐる。

ハートフルな公民館

[illegible][illegible][illegible]

布教の最前線②

「わたしは、バプティストの宣教師です。バプティストは、18世紀にイギリスで生まれたキリスト教の一派で、新約聖書を基に、神の国を地上に実現することを目的としています。わたしは、日本に宣教師として来たと聞いて、とても感動しています。わたしは、日本に宣教師として来たと聞いて、とても感動しています。わたしは、日本に宣教師として来たと聞いて、とても感動しています。」

小さな山寺が始めた
劇場「お寺座」。

奇抜なアイデアに
注目の眼差し。

（佐々木信子）

Photo: Wikimedia

県・芸文協からダブル表彰



たぐきました。

夫婦同時に違うところからの表彰というのはめずらしいケース。そしてこの十一月二日というのは、二人の結婚記念日でもあるので、なんともメダタイ



十一月二日 若はんは県の教育委員会から「多年にわたり演劇活動を通して心豊かな青少年の育成に努め、地域に根ざした文化活動の推進に寄与した」と教育功労賞を。

同日、若坊守は、県芸術文化協会から「芸術文化活動の推進に寄与した」として奨励賞をい

[illegible]

北日本新聞に掲載された全面広告。新聞紙面でこれ以上デカイのはいないという全十五段の広告。ひたむきに生きるボランティアの人物紹介シリーズとかでスポンサーはワレモネーセンター。

のテレビ出演

年始年末

文化の発信地、善巧寺
はこの年始、テレビ
にもつづけて三本の出演
十二月十日は、富山テ
レビの衛星中継車の運転
開始を記念しての生中継

お寺の境内から本堂に入って、雪ん子劇団のミュージカル「桃次郎の冒険」の大合唱を披露しました。

「アナー、この劇のテーマは？」
若院「そう、桃太郎は敵をや
つつけるヒーローだったけど、
桃次郎は角があるのはこの私だ
と気付く。自らを省みて、みん

りたい◆葬儀、法事の場合に墮すばかりならまたしも、先日国税庁発表に見る宗教法人の脱税の実態などは目に余る。仏罰を恐れぬ仕業だ。

なと共に生きるという心を育てるのがねらいです。」

放送で男の子たちが子供落語を聞かせます。

■ 一月二日には、雪ん子の子供とおとうさんお母さんたちのトーク番組、俳優の川津裕介さんを含んで「親から子へ、子から親へ、そして勇氣とは……」などについて語り合うことになっています。

番組名は「富山ストーリー スペシャル」(二日午前七時〜八時半放送)



おめでとーぶげいます

善巧寺ファミリィ
今年もよろしく…



住職夫婦金婚式

おめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。

おかげさまで、みなさまの、善巧寺ファミリィは、ちかごろなんだか、おめでたいことばかりでございまして

まずは、ごえはん夫婦、なんと金婚式を迎えました。共に歩んで五十年。すばらしいことですね。

「暮しの手帖」風に申しますと、俊之が歩いてくる。そばに妻の喜子が寄りそふ。この二人がはじめて出合ったのは今から

五十年前、京都のあるホテルのロビーであった。このとき俊之の心は決まったのである。ジャーノ、とまあそんなわけで苦しい戦争を乗り越え、娘二人をかかえて、お寺に帰って

メデタ メデタの若夫婦

つづいては若はん夫婦。これはもう年がら年中おめでたいわけでありまして、ことしは地方区から全国区へ。

とにかく病氣持ちの若はんは超人的な活躍で、雪ん子の十周年、お寺の開基五百年事業の作成、そして、全国を飛びまわつての講演、さらに県庁では「文

きたのがいまから四十年前。以来、門徒の皆様を支えられ戦争で供出させられたつり鐘を铸造し、荒れた庫裡を建てなおし：ようこそ、ごえはん、金婚式、おめでとうございます。

化の県づくり」「心豊かな人間育成研究会」「新川文化ホール建設審議会」の委員に選ばれ、本山では仏典アニメの制作…といういそがしさ。

若坊守の方は、その若はんの世話（これが一番たいへん）と浦山婦人会の会長と、お寺の仕事と、東京、大阪、浦山と三方に散った子供への心づかい…。いやまったく、わが寺の観音さまでございます。

長女は女子大三年生

長女の有花は武蔵野女子大の三年生。この学校は本願寺系で学長の大河内昭爾先生もお寺さんの出。ここで学校から奨学金をいただいて元氣ハツラツ。

昨年からは寮を出て、流行都



市ジョージタウン吉祥寺で、とにかく十分に青春しているところです。

でもうれしいじやありませんか。卒業論文は親鸞さまの奥さんの「恵信尼公」を研究するんです。

長男平安一年生



長男俊隆は、昨年、京都本願寺裏の平安高校へ。はあ野球が上手だったから平安へ？

いやいや違うんです。父の病気のこともあり、早めにお坊さんの勉強をしておこうと仏教コースに入ったんです。

下宿はもちろん若はんの実家。クラブはバドミントン部とかで夜遅くまで。

先日、若はんが京都本山の布教に出たときは一週間、一緒に

本願寺会館講師室で寝泊りしましたが、その時のうれしかったこと！ ふとんに入ってから、俊隆がいうんです。

「お父ちゃん、あのさあ、俊ねえ、来年、得度しようと思うんだ。お寺の子の友達も三人ほど出来たよ。そいつらと話して決めたいんだ。いいでしょ？」
若はんは枕をぬらしたノダ。

次男は中三受験生



次男の教隆は宇奈月中学三年生。大きくなって、声がわりもして、足のサイズなんぞはもうおやじを越しております。

姉と兄がいらないので、ちよつとさびしいようですが、その分両親と祖父母にかこまれて、それがいいのか悪いのかわかりませんが、手伝いをしたり、おやじのかわりにお参りをしたり、よくやってくれます。

そうそう、今年もう卒業。ということは、そう、いま、受験生でありまして、大いにガンバッテおります。

高島夫婦は銀婚式

善巧寺の住職夫婦が金婚式でこちら法輪寺の高島さんは、なんと！銀婚式！！オメデトウございます。ごえはんの司婚でお寺で式を挙げたのが二十五年



前のこと。

「そうだったねー」と二人で顔を見合わせてニッコリ笑って結婚以来はじめて二人きりで京都、奈良と記念の旅行。

「ええ、そうなんです。新婚旅行と同じコースを。」

屋根の瓦の総入れ替えも無事に終えて、いやあーけっこう！素敵！

ひとみ・奈緒子さんは

で、長女のひとみさんは、大学を卒業して昨年春からOL一年生。富山西武のBI食料品売り場の花。お店の人に聞いたら

なかなかの人気者だつて。



奈緒子さんは桜井高校三年生。

雪ん子での名女優も、いまや、受験でたいへんです。いつも、夜おそくまでお部屋の電気がついています。がんばって下さい。



神子さん夫婦に初孫誕生

の外孫で、名前 は文絵ちゃん。

おじいちゃん、おばあちゃんと呼ぶにはまだまだお若いお二人さん。でも、やっぱり、孫からみたら、おじいちゃん、おばあちゃんだよねー。

巧さんは役僧修行



次男の巧さんは沖縄の大学を卒業して、お坊さんのお勉強で中央仏教学院を出て、いまは、山口県のお寺のインターン。つまり、お寺の役僧さんになって目下、修行中というところ。

一英さんはミス宇奈月



一英さんは、昨年は大変な年おつとめをやめて花嫁修行で、ミス宇奈月に選ばれて、グアム島旅行をして、いまは、宇奈月町のPRガールとして活躍。カッワイイ！

十二月一日 月曜日。

もう師走の月に這入った。あつと云う間に月日が過ぎる。今年には色んな事があつた。昭和が平成になった。内閣が何回も変わった。お隣の国では天安門の変があつた。東ヨーロッパでは民主化の大奔流があつた。併し、此の私にとっては、これ等は皆んな新聞紙上の大きな見出しの大乱舞に過ぎず、書斎の硝子戸の外は来るべき雪の季節を前にして紅葉は落葉を落して裸木になつて了つたが、ストーブは赤く燃えて何の変事もない。今日はお講の日で、お講当番の門徒衆の高笑いの声が此処まで聞える。

夏目漱石は、大正四年一月十三日から、新聞に「硝子戸の中」と云う文章を連載している。そ



住職日記

の第一回に次のように書いている。「去年から欧州では大きな戦争が始まつている。さうして其戦争が何時済むとも見当が付かない模様である。日本でも其戦争の一小部分を引き受けた。それが済むと今度は議会が解散になった。来るべき総選挙は政治界の人々に取つての大切な問題になつてゐる。米が安くなり過ぎた結果農家に金が入らないので何処でも不景気だと囁いている。要するに世の中は大変多事である。硝子戸の中に凝と坐つてい

る私などには一寸新聞に顔が出せないような気がする。」こんな文章を読んでいる間に十一時半の喚鐘が鳴り、お講のお勤めが始まる。終つて相も変らぬお説教を始める。薩語りの女房は私の声が途絶えぬか足がふらつかないかと心配してくれてゐるに違ない。併し、門徒の善男善女を前にしてお説教するのは嬉しくて仕方がない。自己主張も必要ないし、小さな論理の筋道などかかわることがない。大きなみ教えの中で、その力と云うか、めぐみと云うか、大きくつつまれて私は安心して切つて

居られる。遠からず私の頭は呆けてくるし、足は萎えるに違ない。現に先月は、身寄りの住職二人が相次いで亡くなつてゐる。一人は同じ歳の従兄弟であり、もう一人は二まわり近くも若い働き盛りの好人物だった。兎に角、お話を終つて書斎に入ると郵便が来ている。遠くサウジアラビアに行つて二年余りになる娘からの来信である。一月の初めに日本に帰つて来る予定とのこと。それ迄は何としてでも元気で居らねばならない。近頃、早寝の習慣で八時就床。大根の風呂吹き美味し孫揃ひ日めくりは師走となりて煤拂ひ追記。本日早朝より総代各位庭の清掃奉仕をして下さる。お蔭で荒庭も面目一新。多謝合掌。

教 布 山 本 院 若

大獅子吼に満堂わく

寺からも聞法団

11月
20～24日

本願寺の秋の全国門徒総追悼法要の布教に、寺の若はんが出講。満堂の全国の門信徒の方々にたいへんよろこんでいただきました。

期間は秋の法要の特別期間中の十一月二十一日から二十六日までの六日間。朝の御影堂法話に昼と夜の総会所布教。

本山出講といえ、昔の布教使の方は自坊で赤飯をたいてよろこんだという話もあるほどの大切な、そして名譽なご縁。

元気な折は、またのご縁に：と他の方へお譲りしていただくので、



すが、闘病生活に入ったいまでは、またのご縁があるかないかというわけで、受けさせていだきまし

そして二十二、三日は、顕如宗主四百回忌大法要お待ち受けの「本山布教大会」。本山の阿弥陀堂に五千人余の門信徒の方々が参拝され、門徒総法要のあと仏婦の大コーラス。そして布教大会となりましたが、本堂での布教大会は初めてとか、それも満堂の盛況。

浦山の門徒さんも応援にかけつけて下さり、若はんは大よろこびで大獅子吼。聴聞の方々にも大いによろこんでいただきました。おかげでいまだに、全国各地から参られた方からのお便りがたえません。本堂にありがたいことでありました。

布教 山 本 院 若

一月十三日より十五日まで

布教 山 本 院 若



お正月参りにこられた方にさしあげている本山カレンダーの法語を、やさしい法話にした本が本山から出ました。若院と昨秋の行信OB会に来院いただいた天岸浄圓師も執筆しています。一部五〇〇円、寺にあります。

雪ん子十年、たすけあいと年忘れ大会でしめくくる

雪ん子十年―昨年もしめくくりは十二月十六日の歳末たすけあい募金運動と、県民会館で十八日に行われた「年忘れ愛のこども大会」でした。まあとにかくたいへんな人気で、テレビやラジオオで全国にも流れ、各地から激励や出演交渉が相いついでいます。そして、



で、テレビやラジオオで全国にも流れ、各地から激励や出演交渉が相いついでいます。そして、



見るお経 楽しく美しく
「お釈迦さま」
誕生から涅槃まで
定価 9,300円

善巧寺の常例行事

お寺の学校	毎月 一日・十六日
雪ん子劇団	毎週 月曜四時
夢の会	毎月 第二土曜日
花の会	毎月 第一火曜日
お経の会	第一・第三土曜日

合 掌

「暮しの手帖、読んだわよ。雪山さん、仲良く、すてきな生活なさってるわねー」
暮れの十二月九日、東京の絵画館前でファッションサミットの女主人、森英恵さん。

「雪山さんて…もと、利井さんでしょ。ああ、やっぱり、そうだ！ 暮しの手帖読んでいて間違いないと思ったのよ。元氣にがんばっているわねー。功がいたらどんなによろこぶか…。一度、お会いしたいわね、奥さまも一緒に」とお電話下さったのが、木村功さんの奥さまの木村梢さん。

「隆弘ちゃんやないか、りっぱになったなあ。ええ坊さんやないか！」―本山布教大会で声をかけて下さったのはコーラスの指揮者、神谷慧さん。四十年前に大阪の私の寺に下宿していた歌の先生。

「布教大会でお説教聞かせていただきました。胸のつかえがなんかスーッととれたようで…」と若い布教使の方。

恩師やら、級友やら、仲間やら、とにかくいろんな方から、お便りや、おはげましをいただいて、若はん感激しております。今年もよろしく

